

## ま え が き

本資料は、「WTO体制下における農業バイオ規制を巡る国際的な摩擦の動向と整合化の方向の解明」（農業バイオ）の推進に資するために、中国およびアメリカより招聘した2名の外国人研究者による報告および研究会記録をとりまとめたものである。内容は、次の3つのパートに分かれる。

まず、顧国達教授（中国浙江大学経済学院）には、中国における遺伝子組換え技術および組換え作物に関する研究開発、規制制度、商業栽培に関する動向と共に、農産物貿易に及ぼす影響について、河原昌一郎室長と共に論じていただいた。中国は、すでに組換えワタの商業生産が広範に普及しているだけでなく、研究開発面においても組換えコメの開発など、ますます注目すべき存在となりつつある。

次に補論として、中国における植物新品種保護制度の近年の動向について、河原室長がとりまとめた。遺伝子組換え作物の商業化は中国にこうした知的所有権制度への関心をもたらしているという背景もあるが、我が国の種苗業者からも高い関心を寄せられているところであり、こうした問題意識に答えるものでもある。

最後に、ポール・B・トンプソン教授（アメリカ・ミシガン州立大学）には、「農業バイオテクノロジーをめぐる政策と倫理」と題して特別研究会において報告いただいた。報告は農業バイオの論争の背景、米欧における差異、アメリカ社会での受容など多岐にわたる内容をもつが、研究会記録および報告時のプレゼン資料を収録した。

中国およびアメリカ、一見対照的にも見えるが、農業バイオという観点からすれば、いずれも組換え作物の商業栽培を進め、研究開発にも積極的に取り組んでいる国である。これらの国々における研究開発や規制、商業化をめぐる動向に対しては、広く関心が寄せられているところであるが、本研究資料がそうした関心に対してなんらかの貢献ができれば幸いである。

平成 19 年 3 月

農林水産政策研究所  
農業バイオ・プロジェクトチーム